

～ 沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動 ～

草の根ニュース

■本部(東京) :〒150-0042
東京都渋谷区宇田川町19-5 山手マンション1001
■沖縄連絡先 :池宮城紀夫(弁護士)
沖縄県那覇市樋川1-16-38 那覇第1法律事務所
■電話・ファックス :03-3461-5758 090-4175-2010(平山基生)
■メール : kusanone@world.ocn.ne.jp
■ホームページ : http://www.kusanone.org
■郵便振替口座 : 00190-5-611535 (主権回復カンパ 随時大歓迎)

僅差でも上回り、オナガ雄志氏を沖縄県の顔に！ 辺野古新基地など阻止署名運動を 草の根から更に全国各地で前進させ 辺野古新基地阻止、オスプレイ反対などオール沖縄「建白書」 を不屈に貫く沖縄県知事を 全「日本沖縄」国民の力で

11月16日の沖縄県における政治的闘いは、決して沖縄県だけの問題ではありません。沖縄県は日本の一県です。沖縄県に百年2百年もつ新米軍基地を作らせるかどうかは、日本沖縄をほぼ永久に米軍占領下に置くことを許すかどうかの闘いです。もちろん次のこともその通りです。「沖縄の命運を決める知事選挙—安倍政権に痛撃を！」沖縄県の著名な市民派弁護士で、「草の根ニュース」恒例執筆者、草の根運動共同代表の池宮城紀夫弁護士は、このように書き次のように続けています。「沖縄県知事選挙が、11月16日投開票と目前に迫った。当初は、仲井真現知事と翁長雄志那覇市長と2人の対決かと思われていたが、元郵政民営化担当相の下地幹郎氏と前民主党県連代表喜納昌吉氏が名乗りをあげて4人による混戦状態になっている。

今回の最大の争点は、名護市辺野古海域を埋め立てて新基地を建設し、普天間基地を移転する日米政府の政策に反対している74パー

セントを超す県民世論の現実を踏まえ、『辺野古新基地反対か賛成か』である。」「仲井真氏は、4年前『普天間基地は県外移設』と公約しながら、安倍政権に懐柔されて去年



翁長雄志前那覇市長

の12月に辺野古の埋立承認をした。県民から『裏切り者』と、今もって糾弾されている。

そのような人物を当選させるようでは、沖縄も終わりだ。」と。「そのような人物を当選させるようでは、日本沖縄も終わりだ」とも言えます。

日米共用基地キャンプシュワブ（地位協定2条4項a「米軍が管理し日本も使うことができる基地」に該当）海兵隊基地につながる、辺野古新基地は、安倍内閣の閣議決定「集団的自衛権行使」による米軍永久占領を、まさに具体化する最初の一步といって差し支えありません。

11月16日の沖縄県政治戦は、安倍内閣とそれを強くバックアップする米政府の自民党候

補仲井真氏と新基地に反対するオール沖縄県民を代表する翁長雄志氏との対決です。

翁長雄志氏は、「辺野古に新基地を作らせない」という要求を代表しています。しかし、それは、現在の局面において、単に、沖縄県民を代表する候補であるだけではなく基地をなくして米軍占領を終わらせ日本の主権を回復し憲法を実現したいという願いにつながるので、すべての「日本沖縄」国民の代表です。

旭川西地域九条の会から200筆

「オスプレイ反対普天間基地閉鎖および辺野古・高江新基地建設反対署名」

金力と権力に勝る自民党安倍政権の代弁者で米政府という黒子までついている仲井真候補は、いささかも悔えることはできません。僅差でも彼らを上回り、勝利するためには、

「圧勝」などという勝利を前提とした、楽観論を克服し、必勝の思いで燃えに燃えて、勝利のためにやるべきことを必ず実行しなければなりません。現在はそうありません。

全沖縄県民と全日本国民に、「オスプレイ反対普天間基地閉鎖および辺野古・高江新基地建設反対署名」をひろげ、沖縄県で行われている、日米政府による民主主義を踏みにじり戦争への道を準備し、永久属国日本しかも「侵略的属国日本」への道を固めようとする「政府の行為」を知らせ、大多数の国民を団

結させて、新基地反対の翁長雄志氏を沖縄県の顔に押し上げることです。

この署名運動は、2010年8月から始められ、現在、8633筆、延べ489人の方々が集めてくださっています。（2014年10月24日現在）

北海道旭川からは、200筆の署名が寄せられました。署名を集めてくださった、3人の方に経験をお書き頂きましたので、ご紹介します。

旭川市 坂井 律子さん

人が集まる所で、署名用紙を広げます。「安直なやり方だね」と夫は言いますが、「《省エネ署名活動》って呼んで」と返しています。例えば、「全道〇〇集会へ向かうバスの中」「市民劇場＝観劇会」「金曜行動」「九条の会主催の学習会」などに於いてです。一人ひとり声をかけて署名してもらうこともありますが、「回して下さいますか？」と隣に座ってい

草の根ニュース 83号 2014年10月28日 沖縄県政治戦 緊急号 《部内資料》 占領69年の2014年を主権回復へ始動の年に
「平和的で責任ある政府が樹立されたとき、連合国の占領軍は、直ちに日本国から撤退しなければならない」(ポツダム宣言)。「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」(憲法前文)

る人をお願いしています。回した場合は、署名用紙が戻って来るかなあという不安もありますが、それは取り越し苦労。必ず戻ってきます。

今回の「オスプレイ撤去……」「砂川事件最高裁判決無効……」の署名は、9月20日に行われた道北母親大会と、翌21日実施の講演会(“生活”を描いただけで監獄へ～旭川で起きた生活図画事件を語る～)この2カ所で取りました。いつも軽い気持ちで取り組みますので、常に「反省！」があります。今回の「反省！」は2つ、①署名用紙は前もって印刷しておくこと。(集会が始まる直前に用紙を増し刷りしていたので、早く来場した人から署名を取り損ねた)②署名コーナーは出入り口の外、広い所にすること。

母親大会の時は、昼休みに署名用紙を増し刷りした後、「三食ちゃんと食べないと死ぬ」と思っている私は、会場近くにある食堂へ行きました。食堂で知人3名を発見。14筆集まりました。講演会場に戻ると既に満席に近い状態。後ろの方の数カ所で「沖縄の……」と簡単な説明をし、「できたら回してほしい」と署名用紙数枚を渡して歩きました。母親大会の参加者は署名慣れしていて、タイトルを見ると直ぐ署名。スムーズに回してくれました。翌日の生活図画事件の講演会では、署名コーナーは会場の一番奥。「沖縄は《日本の心》です」と呼びかけたのですが、ちょっとしかとれませんでした。《生活図画》というタイトルにひかれて、プロやアマチュアの画家たちが多数来ていました。九条の会主催の集会では、見かけたことのない人たちでした。治安維持法の犠牲者(生き証人)の講演を聞き、日本社会を戦前に戻そうとする動きに危機感を強めた人が多く居た講演会だっただけに残念でした。やっぱり、一番目立つ場所に署名コーナーを作れば良かった…と、後悔しきり。しかし「ここでカンパしたら、沖縄の人たちに

届きますよね」と3,000円募金してくれた人がいて、感激もしました。

旭川市 小野久子さん

沖縄のことは、いつも心にあります。沖縄の方々が、平和の問題でも暮らしの問題でも大変な中、いつもがんばっておられる様子が伝わってきています。

今回の署名についても、一筆でも多く集まってほしい、と願っています。

私は、うたごえやコーラスの活動をしていますが、行く先々で少しでも署名を集めたいと、カバンの中に入れて歩いております。

「オスプレイ、普天間、辺野古、高江」の署名を見せると、「今まで知らなかった」という人や「この問題で心を痛めていた」という人がいて、色々と対話になりました。「この署名、ほかではあまり見ないね。署名用紙、もうないの？」というコーラス仲間もいたので、コピーをして、お願いしようと思っています。

「沖縄にカンパを！」の声は、色々な所で聞きます。今回の署名用紙に募金の欄がありましたので、まず、自分の署名の横に100円(ほんの少しですが・・・)と書いて回してみたら、みなさんが100円ずつ募金してくださり、ポケット募金を集めることができました。

「署名運動はオスプレイ撤去、普天間基地返還、辺野古断念まで続けます」とあったので、これからも、少しずつ足を運び、一人でも多くの人に、私なりの言葉で話して署名をうったえたいと思います。そして色々な人の生活の中から小さな心の募金が集まるといいなと思います。施設に入所している92歳の私の母に署名をお願いしたところ、募金欄に「100圓」と旧字体の「圓」を使って記入しました。そして「100エンは変かしらね」と残念そうに言うので、私は「お仕事も何もしない人の100エンはすごいよ、

92歳の方の100エンはすごいよ、嬉しいよ」と答えました。母は「沖縄で困っている子ども達のためにだよ」と言っていました。50円でも、100円でも、200円でも、心ある人の募金を集めたいと思います。

旭川市 平山沙織さん

9月23日に「旭川労働組合総連合（旭労連）」という地区労連の定期大会がありました。私は、旭労連に加盟している労働組合の執行委員長をしています。

せっかく人が多く集まる機会なので、旭労連の定期大会で「オスプレイ撤去・普天間基地閉鎖および辺野古・高江新基地建設反対」の署名を集めようと思い、署名用紙を持参しました。

札幌から来賓として参加していた道労連の人や、旭労連の執行委員、代議員になっている各労組の代表の方に署名をお願いしたところ、みなさん快く書いて下さいました。保育関係の労組からはすごく若い方が出席していたので、沖縄をはじめ日本の米軍基地のことやオスプレイのことをひとこと説明してから、署名をお願いしました。全部で20数筆集まりました。

今後も、講演会や学習会などの機会に集めていきたいと思います。

東京・港区や紀の川市からも

藤田 節さま（東京・港区）

オスプレイ撤去、普天間基地閉鎖、辺野古・高江新基地建設反対署名の件です。

小平在住の方を通して市のコーラス、その他文化サークル等に参加して居る親戚の人が集めてくれました。9月28日に市の講演会で平和コンサート（小平市民ホール）が行われ、毎年、希望に満ちた素晴らしい合唱が聴けま

す。その方々も皆さん快く署名をして下さったそうです。定年退職後、勤務2年間でしたが、図書館の組合の方にも依頼したいと思って居りますが、保守都政下で大変勤務・組合活動の厳しい制限があつて職員の方々も大変なようです。メーデーの参加人数も数が限られてしまったのか、少なくなったように思います。退職者の方々の人数は多いままですが、やはり現役の方々が関心をなくしていくのは問題ですね。（中略）図書館の方々は今年は前の方になっていて、印刷関係の団体の人々は一生懸命耳を傾けていました。今日沖縄の方へ電話しましたら（渋谷は話し中）まだ8000人位だと言われ、私も頑張つて集めたいと思って居ります。微力ながら11月までにはと思っています。よろしくおねがい致します。

鳥野久子さま（紀ノ川市）

署名が集まりましたのでお送りします。安倍政権は口癖のように「国民の皆様にていねいに説明」と言いますが、実際は問答無用で全てを強引に進めていきます。過去に自民政権のゴリ押しに何度も怒りを感じてきましたが、秘密保護法案、集団的自衛権行使容認、辺野古埋立てへの着手と矢継早にこれ程ひどいゴリ押しを断行したのは安保の時の岸内閣以来と言わざるをえません、まるで安倍首相は祖父の遺志によって操られているかの様です。今春、この目で見たあの美しい辺野古の海が、県外移転を公約に当選した沖縄県人の知事によって埋立てを承認されたのが私にはどうしても理解出来ません、二度と戻らない自然をその地位とお金のためにあっさり放棄する仲井真知事、「アメリカとの約束を果たすためにありとあらゆる手段で準備に万全を尽せ」と発破をかける官房長官、これで日本は真の独立国なのかと問わざるをえません。そして又沖縄には自治が存在しないとも言わざるをえません。その自治を取り戻すために9月

「平和的で責任ある政府が樹立されたとき、連合国の**占領軍は、直ちに日本国から撤退しなければならない**」(ポツダム宣言)。「**政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する**」(憲法前文)

の名護市議会選挙、11月の県知事選挙で辺野古埋立て反対派が勝って県民の意志を日本全国に知らしめて欲しいと切に思います。仮にもし負けてとなった時それこそヤマトの人間たちは、それが沖縄の意志だったのだから我々ヤマトは関係ないということに多分なるでしょう。残念ながら沖縄は遠すぎて何が起きても実感の湧かないヤマトの人間たちが多すぎます。今、私は沖縄の独立ということを考えます。あの美しい海がメチャメチャにこわされる前に沖縄が琉球として独立できないか、米軍基地を全部日本に返して、観光立国として生きていけないか、経済的に米軍基地への依存度が下がっているようすし、勿論沖縄人の強い強い覚悟が必要でしょうが、これ程ヤマトとアメリカに踏みにじられていい訳はないと思ってしまうのです。無責任な人間の放言と言われるかもしれないけど、神さまから与えられたあの美しい自然を沖縄に残すにはそれしかないような気持ちになっています。署名して下さった方々から寄付は頂けませんでした。が、わずかばかりですが、振込用紙を使ってお送りさせていただきます。

【編集部から。署名を30人も集めて下さいました、又カンパも頂きました。心からありがとうございます。沖縄の米軍基地問題は米軍地位協定による「日本沖縄」全土基地方式の集中的表現です。本土沖縄の国民が、一体となって立ち上がらなければ、日本沖縄の基地問題は、絶対に解決しません。本土国民と沖縄県民を分断させようという米日政府の策謀に、断じてのることなく、沖縄本土一体となってたたかうこと、これが勝利への唯一の道です。思想信条党派をこえ沖縄本土のちがいをこえた、個人加盟の全国組織「基地をなくす会」(仮)が必要です。団結してがんばりましょう。】

署名運動を 更に全国に 発展させ

沖縄県政治戦勝利と合わせて、署名運動を飛躍的に発展させましょう。政治戦支援カンパを集めましょう。辺野古へ行ける方は、1日でも半日でも辺野古での新基地反対活動に参加しましょう。

全国各地での「集团的自衛権」反対、9条守れ、秘密保護法反対の運動と合わせて、現在の政治の焦点である沖縄県辺野古に新米軍基地を作らせない、闘いに参加しましょう。

今や、安倍内閣は、「国民の敵」であり「憲法の敵」であり、「侵略的属国」状態へ日本沖縄を永久化しようという内閣であり、国民の力で打ち倒すしかありません。



9月20日辺野古集会で



10月9日 沖縄県庁を包囲する人たち

《資料》沖縄県知事選挙に臨む基本姿勢および組織協定

沖縄県知事に出馬表明した翁長雄志那覇市長と沖縄県の4党1会派（社民、共産、社大、生活、県民ネット）は9月13日に「沖縄県知事選挙に臨む基本姿勢および組織協定」を以下の通りに調印しました。

I、基本姿勢

私たちは、2014年11月の知事選挙に当たり、県民との公約を遵守し民意を大切に作る知事を誕生させます。建白書等に示されたオール沖縄の意志に反し、県選出自民党国会議員と自民党県連が政府自民党の圧力に屈し、方針転換をして県民を裏切りました。さらに、知事の辺野古埋立て承認は県民の失望と大きな怒りを招いています。新しい知事は埋め立て承認撤回を求める県民の声を尊重し、辺野古新基地は造らせません。基地に頼らない産業、経済に力を入れ、沖縄の優位性を生かした経済を発展させます。離島振興、鉄軌道導入に取り組み地域振興をはかります。沖縄の誇りを取り戻し、明るく、夢と希望の持てる沖縄を実現しよう。

- 1、米軍普天間基地を閉鎖・撤去し、県内移設断念を求めます。オスプレイ配備を撤回させ、新たな基地は造らせません。
- 2、沖縄の特性をいかし、観光産業、地場産業、農業・漁業及び中小企業

の振興をはかります。くらしと経済を壊すTPP（環太平洋連携協定）と消費税増税に反対します。

- 3、社会保障制度の拡充をはかり、くらし・福祉の充実を目指します。雇用の安定・安心に向けて、失業率の改善と若者の雇用創出をはかり、賃金格差是及び非正規雇用の改善をはかります。
- 4、憲法9条を守り、県民のくらしの中に憲法を生かします。解釈改憲に反対し、特定秘密保護法の廃止を求めます。県立病院を存続させ、地域医療を充実させます。
- 5、子どもが主人公の教育を進め、30人以下学級や少人数学級を推進し、教育環境の整備に全力を尽くします。世界自然遺産登録を目指し、自然環境の保全、回復に力を入れます。

II、組織協定

翁長雄志氏は、県政運営にあたって基本姿勢を遵守します。

県政運営上、政策上重要な問題が生じた場合は、翁長雄志氏と各党、会派は速やかに協議します。

■ 新刊書

『元原発技術者が伝えたいほんとうの怖さ』(彩流社刊)

小倉 志郎・著



「原発は、ほんとうにとんでもない怪物だ。あの複雑怪奇な原発の構造を理解しているエンジニアは世界に一人もいない...」。本書のまえがきの中で著者はこう述べている。

著者は1941年5月、東京生まれ。慶応義塾大学工学部機械工学科卒、同大学院修士課程機械工学専攻修了。日本原子力事業(株)(後に、東芝に吸収合併)に入社。その後35年間、現場で原発開発に携わり、主に福島第一原発の4号機を除くすべての号機の安全系ポンプの技術とりまとめ役をした。いわば原子力発電所の見積・設計・建設・試運転・定期検査・社員教育に至るまでのスペシャリストといえる。

本書は、2部にわかれ、1部は「元原発技術者が言える原発の危険性」、2部「事故のあとだから言えること」。巻末の資料には、①「原発を並べて戦争はできない」②紙芝居「ちいさなせかいのおはなし」③内部被ばくについて基礎知識を得るための参考書の紹介が付記されている。

著者が3・11福島原発事故に遭遇したのは、中央区でおこなわれた「中央区平和プラザ2011平和をねがう中央区民の戦争展」の会場。実行委員として参加していた時で、イベント開催中の午後2時過ぎ、突然大きな揺れにおそわれた。

首都圏は夜になってもJRなどほとんどの主要交通機関が全面不通となり、著者は横浜の自宅に帰れず、その日は会場に泊まらざるを得なかった。会場に備え付けのテレビでは東北地方の太平洋沿岸を大津波が襲い、東電福島第一原発が電源を失い、原子炉の冷却ができなくなっている、という衝撃的なニュースが流れていた。

「そんなはずはない。非常用ディーゼル発電機があるではないか」

万が一の備えとしての発電機が止まるとは、まさに想定外のことです。頭の中が真っ白になった

その後、福島原発第1、2、3号機がメルトダウン。福島県内のみならず、関東周辺の山林、海域は現在も放射能によって汚染され続けていることは読者もご存じのとおりだろう。今回の福島原発の事故に際し、著者は、「原発をエネルギー資源の少ない日本にとってまるで“救世主”であるかのような夢を見て疑わなかった。元技術者として私自身、痛切に責任を感じている」と述べている。

2002年東芝を定年退職したのちのこと、著者は、2008年末に知人から贈呈された2冊の論文(1. Jay M. Gould & Benjamin A. Goldman 著、肥田舜太郎・斉藤紀訳「死にいたる虚構—国家による低線量放射線の隠蔽—」、2. Donnell W. Boardman 著、肥田舜太郎訳「放射線の衝撃—低線量放射線の人間への影響(被爆者医療の手引き)」)を読み、これまで予期して来なかったこと、すなわち、内部被ばくによる低レベル放射能であっても、人体に多大な影響を及ぼすことを知り、直ちに全ての原発の運転を停止すべきだという認識に達した。

著者は、3・11事故が起こる4年前に『原発を並べて戦争ができない』という小冊子をつくり、原発の危険性を警告してきた。その理由は、何よりも原発の冷却システムが非常に複雑でいたる所に弱点があるからで、日本が地震や津波にあう確率の高いというばかりか、原発が小人数のテロリストの攻撃に対してすら防ぐ手だてがないからだと指摘している。

放射能の危険性が子どもにもわかるように、紙芝居『ちいさなせかいのおはなし』をつくり、2011年3月5日に千葉県鎌ヶ谷市で初上演を行った。3・11事故が起こる6日前のことだった。

本書の中で、著者が自責をこめて述べていることだが、その第2部「事故の原因—天災か人災か?」の中で、3・11事故が起こるはるか前から事故を、未然に防ぐことができたチャンスが少なくとも5度あったと指摘している。

「2008年、東電内部の津波の検討により福島第一原発を3・11事故並みの津波が襲う可能性があることを把握した。この結果にもとづき、安全が確認できるまで、福島第一原発を一時休止することができたはず」(第4のチャンス)—などと指摘した。こうしたことを踏まえ著者は、「したがって、事故のほんとうの原因は政府と東電が何度も大事故予防のチャンスを逃していたことである」と批判している。

●四六版224ページ 定価：1700円+税

●彩流社：03(3234)5931

会員・読者の声

田中栄次郎さま（川崎市） 微力ですが、心から応援します。（コスタリカに学ぶ会）

社会民主党、鳥取県連合 代表 知久馬二三子さま 入会

栗原佳子さま（大和市） パソコンカンパ¥2500 カンパ¥5000

金崎昭三さま（弘前市） 知事選勝利、オスプレイ反対の勝利のためがんばってください。
皆さんの御健闘を祈っています。

矢三隆司さま（旭川市） ジュゴンに迷惑をかけてはいけない。いつの日か、辺野古の
海で泳ぎたいです。現地で闘っている人達に何か差入れを！

鎌田由利子さま（足立区） 沖縄県知事選等へカンパします。

佐方 光さま（福山市） 沖縄知事選必勝カンパ

経塚憲二さま（黒部市） 2014年度会費及び草の根カンパ5000円、選挙カンパ5000円、
お送りします。

福井典子さま（渋谷区） いつもニュースをありがとうございます。素晴らしいご活躍に
敬意を表します。

中嶋祥子さま（市川市） 沖縄から夜明けを！ 公共一般では応援に行こうと、呼びかけ
ています。

浅子薫衣さま（春日部市） よろしく願いいたします。久々に矢臼別でお会いでき、嬉
しかったです！！

日本共産党飯田伊那地区委員会さま おつかれさまです、ほんの少しで恥ずかしいこと
ですが、とりいそぎお元気で

高石陽子さま（調布市） 長いこと一緒に学ばせて頂きましてありがとうございます
た、80歳を過ぎて目が悪くなりました、今回の送金でお別れします。ありがとうございました。

林世志江さま（新宿区） 戦争する国作り内閣は一日も早く止めて、すべての人が安心して働
き、暮らせる政治になって欲しい。

平山孝子さま（新宿区） 翁長さんの勝利を願っています。

坂井律子さま（北海道・旭川市） 長年の「沖縄・日本から米軍基地をなくす草の根運動」
に敬意を表します。本当にお疲れ様です。いつも丁寧な資料をお送り下さいましてあ
りありがとうございます。送っていただいております資料とニュースの活字の多さは皆様
の《知ってほしい叫び》《怒りの強さ》、私は怒りと悲しみを感じながらいつも読ませ
ていただいております。先日、翁長雄志候補の勝利を願って、仲間で応援のカンパと
連帯のメッセージの旗を沖縄に送りました。皆様、お体を大切になさってご活躍く
ださいよう願っております。【編集部から 署名運動のご経験を手記としてお送り頂きました。
そのときの前書きを転載させて頂きました。ありがとうございました】

〈詩〉

コスモス

あ・け・み

お日さまのうたが
 大地のうたが
 風のうたが
 聞こえてきます

お日さまのゆめが
 風のゆめが
 大地のゆめが
 咲かせた花です

どこまで行っても
 コスモスです
 いっぱい
 いっぱいの
 コスモスです



9月20日沖縄県庁を包囲。「辺野古基地NO。県民は屈しない」と叫ぶ参加者たち

◆編集後記「まさかオール沖縄の

オナガが負けることはないだろう」と支持者たちの九割は思っているでしょう。大田知事選の時も、伊波洋一候補の時も、多数の人たちがそう思っていました。私は、伊波候補の時、「このままでは必敗だ」とメーリングリストに書いてだいぶ叱られました。選挙の怖さはそこにあります。自民党支持の人まで、「がんばって下さい」と活動家にいう情勢。しかし、そういうことを言ってくれる人が投票に行かない。なぜなら、大丈夫だと思っているから。今回の選挙は負けられない選挙ですが、今のまま大丈夫論を克服できなければ、必敗です。「圧勝」などと言うのは禁句です。「辛勝」でも一票でも相手を上回って勝利を勝ち取るために、やるべきことを死に物狂いにやりぬきましょう。(H)

沖縄報告 2014・10・18 記

沖縄の命運を決める知事選挙—安倍政権に痛撃を！

共同代表 池宮城 紀夫（弁護士）

沖縄県知事選挙が、11月16日投開票と目前に迫った。当初は、仲井真知事と翁長雄志那覇市長と2人の対決かと思われていたが、元郵政民営化担当相の下地幹郎氏と前民主党県連代表喜納昌吉氏が名乗りをあげて4人による混戦状態になっている。

今回の最大の争点は、名護市辺野古海域を埋め立てて新基地を建設し、普天間基地を移転する日米政府の政策に反対している74パーセントを超す県民世論の現実を踏まえ、「辺野古新基地反対か賛成か」である。各予定候補者の主張は次のとおりである。

仲井真弘多氏—「普天間の1日も早い危険

性除去のため辺野古新基地容認」

翁長雄志氏—「辺野古新基地断固反対—新

基地を許せば県民自らが基地建設に加担

し、将来に基地被害を押し付ける」

下地幹郎氏「辺野古移設の是非を問う県民

投票を実施しその結果で判断する」

喜納昌吉氏「埋立承認、撤回する。」

仲井真氏は、4年前「普天間基地は県外移設」と公約しながら、安倍政権に懐柔されて去年の12月に辺野古の埋立承認をした。県民から「裏切り者」と、今もって糾弾されている。そのような人物を当選させるようでは、沖縄も終わりだ。

下地氏は、県民投票で是非を問うと主張している。おかしい主張である。正に今回の選挙の最大の争点が「辺野古イエスかノーか」である。それに対する政策を明示しないことはおかしい。彼は、普天間の機能を嘉手納基地へ統合するとの主張もしてきた人物で、嘉手納爆音訴訟団と中部地区住民らにとって、許せない主張である。

喜納氏の主張は、「埋立承認撤回」と一見明白な主張である、しかし同人も普天間基地の機能を嘉手納基地に移すとの主張もしており、原告団や地域住民から拒絶されている。

なお、喜納氏は、連合沖縄は翁長氏を支持しており、民主党本部は喜納氏に立候補辞退を指示したが、同人が従わなかったので、除名された。

仲井真知事の辺野古埋立に反旗を翻した自民那覇市議団と、地元大手企業など従来自民党支持者だった企業グループと、社民党、共産党、地元社会大衆党など革新、市民グループの党派を超えた我われが結束して、翁長当選へ向けて選挙運動を展開している。

翁長雄志氏を当選させるために、全国から熱い支持を送っていただくことをお願いしたい。